

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 受賞記念展のお知らせ

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、「Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 受賞記念展」を開催します。

Tokyo Contemporary Art Award は、海外での活動に意欲を持つ中堅アーティストを対象として、継続的な支援を目的に、平成30（2018）年度に創設された現代美術の賞です。本展は、その第3回の受賞者となった志賀理江子と竹内公太による、受賞後2年間の活動の成果となる展覧会です。また、本展開幕に合わせ、各受賞者のモノグラフ（作品集）を発行します。

1 展覧会概要

展覧会名： さばかれえぬ私^{わたくし}へ Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 受賞記念展

出展作家： 志賀 理江子、竹内 公太

会 期： 令和5（2023）年3月18日（土曜日）から6月18日（日曜日）まで

会 場： 東京都現代美術館 企画展示室3F（東京都江東区三好4-1-1）

ウェブサイト： <https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/>（右QRコード）

開館時間： 10:00～18:00

休 館 日： 月曜日

入 場 料： 無料

主 催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーアーツアンドスペース・東京都現代美術館



ウェブサイト

2 出展予定作品



志賀 理江子 《バイポーラー》よりスチル画像 2022



竹内 公太 《眺めの回収/風船憑依》より
「アラスカ州アッツ島」2022、紙にインク、C-プリント



令和3（2021）年3月19日（金曜日）に開催された
Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 授賞式の様子

授賞式では、受賞記念プレート等が授与されました。

前列 志賀 理江子さん（左から2番目） 竹内 公太さん（右から2番目）

※賞の概要及び選考委員、受賞者のプロフィールにつきましては別紙をご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により、変更等が生じる場合があります。

問い合わせ先

生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課
公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース事業課

電話 03-5388-3178

電話 03-5245-1142

3 モノグラフについて

展覧会開催に合わせ、各受賞者のモノグラフ（作品集）をそれぞれ発行します（非売品）。モノグラフには、作品画像に加え、作品や制作についての受賞者のテキスト、専門家による寄稿が掲載されます。

なお、モノグラフの一部を令和5（2023）年3月下旬に、PDF データとして Tokyo Contemporary Art Award ウェブサイトにて公開予定です。

【参考】Tokyo Contemporary Art Award について

（1）第1回（Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021）受賞者

風間 サチコ（かざま さちこ）

下道 基行（したみち もとゆき）

（2）第2回（Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022）受賞者

藤井 光（ふじい ひかる）

山城 知佳子（やましろ ちかこ）

（3）第3回（Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023）受賞者

志賀 理江子（しが りえこ）

竹内 公太（たけうち こうた）

（4）第4回（Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024）受賞者

サエボーグ（さえぼーぐ）

津田 道子（つだ みちこ）

※令和6年春受賞記念展開催予定

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略「芸術文化の担い手サポートプロジェクト」

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 概要

【目的】

国内で実績があり、世界に発信すべき中堅アーティストのステップアップを促し、世界で活躍するアーティストの登竜門となるような賞を通じ、東京の文化都市としての魅力を向上させる。

【対象】

海外での活動に意欲があり、概ね10年以上の活動経歴を有する現代美術の分野で活動する中堅アーティスト（ジャンル不問）

【特徴】

- ・スタジオ訪問や面談により、**作品のみではなく、制作のプロセスを含めたアーティストのポテンシャルを総合的に審査**
- ・受賞から、**東京都現代美術館で展覧会を実施するまで、2年間***をかけて**継続的に支援**

【支援内容】

受賞者は2組とし、それぞれに以下の支援を行う。

- (1) 賞金300万円
- (2) 海外での活動支援上限100万円*（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- (3) 展覧会実施（東京都現代美術館）
- (4) モノグラフ（作品集）の作成（上記（3）の展示にあわせて制作*）

【賞のスケジュール*】



*上記の支援内容とスケジュールは第3回までのものです。第4回（Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024）からは、アーティスト支援の拡充のため、内容に変更があります。

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 選考委員

（順不同／敬称略）

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ	クンストインスティテュート・メリー ディレクター
住友 文彦	アーツ前橋 館長／東京藝術大学大学院 准教授
高橋 瑞木	CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター
キャロル・インハ・ルー	北京中間美術館 ディレクター
鷺田 めるろ	十和田市現代美術館 館長
近藤 由紀	トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長)

※肩書きは、2020年選考会実施時のものです。

【選考会運営事務局】

特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023
【受賞者のプロフィール等】

志賀 理江子（しがりえこ）

1980年愛知県生まれ、宮城県在住。2008年に移住した同地で、その地の人々と出会いながら、人間社会と自然の関わり、死の想像力から生を思考すること、何代にも遡る記憶などを題材に制作。東日本大震災における社会機能喪失や、厳格な自然法則による体験は、その後、戦後日本のデジャヴュのような「復興」に圧倒されるという経験に結びつき、人間精神の根源を、さまざまな制作によって追及している。

近年の主な展覧会に、「コレクション展2 BLUE」（金沢21世紀美術館、2021）、「温情の地：震災から10年の東北」（Composite、メルボルン、オーストラリア、2021）、「Reborn-Art Festival 2021-22」（牡鹿半島（小積）、宮城、2021）、個展「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」（東京都写真美術館、2019）、個展「カナリア」（Foam写真美術館、アムステルダム、2013）など。



《バイポーラー》よりスチル画像 2022

竹内 公太（たけうち こうた）

1982年兵庫県生まれ、福島県在住。パラレルな身体と憑依をテーマに、時間的・空間的隔たりを越えた活動を展開する。建築物、石碑、彫刻、公文書、郷土史家や目撃者のインタビューといった人々の記憶に触れながら、地図、ストーリーミング映像、UAVカメラなどの多角的な視点で、メディアと人間との関係を探る。

近年の主な展覧会に、「MOTコレクション Journals 日々、記す」（東京都現代美術館、2021）、個展「Body is not Antibody」（SNOW Contemporary、東京、2020）、また指差し作業員*の代理人として「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」（東京都現代美術館、2019）、「ジャパノラマ 1970年以降の新しい日本のアート」（ポンピドゥー・センター・メッセ、フランス、2017）など。

*2011年東京電力福島第一原発のライブカメラを指差しした人物。竹内は彼の代理人として作品の編集、展示を代行している。



《地面のためいき》2022、インスタレーション 撮影：川越健太